



試験結果は以下のとおりであることを証明する。  
平成28年4月28日

受付日：平成28年2月24日  
受付番号：HP16-KT024

## 接合部性能試験成績証

東京都港区芝5-33-7  
徳栄ビル本館4階  
ハウスプラス確認検査株式会社  
代表取締役社長 川股 孝志



1. 接合金物名称	フィットコーナーⅡ
2. 試験依頼者	株式会社 カナイ 〒340-0833 埼玉県八潮市西袋717-1
3. 目的	① 枠組壁工法建築物の接合部の「基準許容応力」及び「基準終局耐力」を試験により評価する。 ② 「基準許容応力」から「降伏耐力」を算出し、「基準終局耐力」との比較結果より、「短期許容耐力」を確認する。
4. 試験内容	「たて枠-床根太」の引張試験 なお、準拠する試験方法・評価方法は2007年枠組壁工法建築物構造計算指針による。
5. 試験体仕様	<p>1) 接合金物</p> <p>「フィットコーナーⅡ」 材 質：SGHC*1 寸 法：87mm×80mm×35mm(外形) t=2.3mm 接合具用孔 6-φ6.4mm 表面処理：Z27*2</p> <p>2) 接合具</p> <p>たて枠側：「鍋頭ねじ φ6.0×75」4本 材 質：冷間圧造用炭素鋼の内、既定の化学成分*3を満足するもの 寸 法：頭部φ9.85mm L=75mm 表面処理：デュラルコート*4</p> <p>床根太側：「鍋頭ねじ φ6.0×150」2本 材 質：冷間圧造用炭素鋼の内、既定の化学成分*3を満足するもの 寸 法：頭部φ9.85mm L=150mm 表面処理：デュラルコート*4</p> <p>3) 枠組材料</p> <p>たて枠：38mm×89mm×788mm スギ 枠組壁工法構造用製材甲種2級 2枚 含水率：8.5～12.0% 全乾密度：0.37～0.42g/cm<sup>3</sup></p> <p>下枠(上)：38mm×89mm×262mm S-P-F 枠組壁工法構造用製材甲種2級 含水率：13.0～15.0% 全乾密度：0.40～0.44g/cm<sup>3</sup></p> <p>下枠(下)：38mm×89mm×600mm S-P-F 枠組壁工法構造用製材 甲種2級 含水率：13.5～15.0% 全乾密度：0.39～0.45g/cm<sup>3</sup></p> <p>床合板：89mm×600mm 厚さ15mm 配向性ストランドボード 含水率：8.5～9.0% 全乾密度：0.55～0.65g/cm<sup>3</sup></p> <p>床根太：38mm×140mm×1000mm S-P-F 枠組壁工法構造用製材甲種2級 2枚 含水率：14.0～17.0% 全乾密度：0.40～0.43g/cm<sup>3</sup></p> <p>4) その他</p> <p>たて枠同士の接合：太め鉄丸くぎCN75 5本 @300mm 下枠-たて枠の接合：太め鉄丸くぎCN90E 4本 下枠同士の接合：太め鉄丸くぎCN90F 2本 @100mm 下枠-床合板の接合：太め鉄丸くぎCN90F 4本 千鳥@166mm 床合板-床根太の接合：太め鉄丸くぎCN65F 8本 @150mm 2列 床根太同士の接合：太め鉄丸くぎCN75F 6本 @300mm</p> <p>*1 引張強さ270N/mm<sup>2</sup>以上の鋼板 *2 両面めっきの最小付着量275g/m<sup>2</sup>(3点平均)以上の防錆処理 *3 C(0.18～0.23%),Si(0.10%以下),Mn(0.70～1.00%),P(0.030%以下),S(0.035%以下),Al(0.02%以上) *4 電気亜鉛めっき Ep-Fe/Zn5/CM2(JIS H 8610 及び JIS H 8625)以上の防錆処理</p>
6. 試験条件等	試験体は接合部を実状に合わせた仕様としている。 試験体は、たて枠中心から床根太の両側400mmの位置で鉄骨架台にM16ボルト・ナット及びW9.0×80角座金を用いて強固に緊結した(トルク管理値：40N・m)。
7. 試験結果	基準許容応力 5.88 kN、基準終局耐力 15.10 kN、短期許容耐力 8.82 kN (詳細については接合部性能試験報告書に示す)
8. 試験場所	ハウスプラス確認検査株式会社 横浜試験研究センター第二試験場:神奈川県横浜市鶴見区矢向1-1-1 10番
9. 試験実施日	平成28年2月25日、3月30日
10. 試験実施担当者	ハウスプラス確認検査株式会社 評定部 家納 吾郎 道場 信義 千葉 博 加川 啓介 宇山 善博

この接合部性能試験成績証を転載するときは、必ず全文を記載してください。